

2013年度 第3回 常任幹事会議事録

●日時  
2013年11月30日(土)  
15:00~17:00

●場所  
阿佐ヶ谷美術専門学校 521教室

●出席者  
秋元圭一〔会長〕  
日野高〔副会長〕  
甲斐光省〔副会長〕  
三好耕之〔常任〕  
西田一成〔常任〕  
桜井裕美〔常任〕  
大村政幸〔常任〕  
浜村圭一〔常任〕  
松岡和彦〔常任〕  
小山弘〔常任〕  
勝山昌幸〔常任〕  
藤原成理〔幹事〕

●委任欠席者(カッコ内→代理人)  
土橋洋一(西田)  
竹島 颯(秋元)  
藤川正美  
渡部証明(秋元)  
白石龍子  
永吉昭浩  
大野美菜子(秋元)  
富澤和治  
山田直毅  
軽込孝信  
小高恭子

常任出席者 11名  
委任欠席者 11名  
(常任幹事22/25名 定足数成立)

●議事進行:松岡和彦

●議事録  
書記:大村政幸

校正・制作・文責:  
秋元圭一・大村政幸

■議題

- 1 まんが計画について
- 2 第12回アサビブリッジセミナーについて
- 3 その他・意見交換

## ■はじめに

事務局より出欠確認と、前回の議事録は承認を受けたので後日asabi-netへアップすると報告があった。

## ■議題 1 まんが計画について

◎担当の小山氏は「2013年11月4日~9日、人形町ヴィジョンズにて無事に開催できました。ご協力いただいた皆様、作家の皆様、ご支援ありがとうございました。宣伝コピー通り、ギャラリーはまんがで埋め尽くすことが無事できました」とお礼を述べて報告に入った。

- ・入場者数120名以上。作品の内容は非常にレベルが高かった。冊子は会期中77冊売れ、参加者29名に各3冊提供で87冊、販売数の見込みが200部だったのでほぼ予定に達している。中身は非常に濃く、良くできた作品集となっている。100冊くらいの残りを学校からの勧めでアサビ購買部のアサビスにて300円で販売中。
- ・公式ホームページを作成してフェイスブックとツイッターで同時に告知し、同窓会のフェイスブックにも上げさせていただいた。短期間のわりには高リーチで、タイムリーな企画として注目度が高かったのではと思う。決算についての最終報告は3月頃となる。

◎小山氏は「来年度も行いたいと考えており、やるとしたら準備を早めたい」と述べ、意見を求めた。「作品のレベルもすごくよく、会場のレイアウトも面白くまとめていた。来年も予算内の範囲で続けた方が良く、人数が増えた場合の対策が必要」「学生がその気になればもっと出てきてもおかしくはないので、壁が足りなくなることは嬉しい悲鳴だし、学生へもっとアナウンスしてもよかった」「交流会や、今回の展示はどうでしたか?といったビデオレターの様なものがあった」「まんが計画とブリッジセミナーを一緒にしてはどうか。同窓会として続けていくのであれば、まんがである理由をどう意味付けするか。学生と一緒に活気づけていたと思うし、学生を巻き込んで行って認知度を上げるのも同窓会の使命だから、まんが以外も考えられる。小沢先生主催の展示会に係わるなどして、在校生に対して認知度を上げるようなことをもっと考えた方が良い」「まんが計画の良さはシンプルだったことだと思うので、ハードルを上げず参加率を上げられると良い」「作家の作品を待ちながら会場準備などもある。作家が増えれば時間もスタッフも必要になり、準備も早めにやった方が良い。同窓会のスケジュールで行くと11月くらいが良いと思うので、ひとつの成功事例で話を膨らませるのもひとつの方法だが、この企画の良さは、参加率を増やしてもらうことで若い人との交流ができることが一番の意義なのかなと思う。複合も良いがどの部門でやるにしても、30代~40代も引きつけられる企画を考えないとなかなか下の年代に広がっていかない」「まんが計画は年代問わず魅力を引き出してくれるのではないかな。参加企画なので、今年はお出してみようかなと思ってもらうのも大事」「次回やるとしたらいつ頃の予定ですか」との問いに小山氏は「11月頭に会場を仮押さえてある」と答えた。

◎以上のような意見交換の後、来年度もまんが計画を行うことが賛成多数で可決された。

## ■議題 2 第12回アサビブリッジセミナーについて

◎担当の浜村氏と西田氏よりの報告と、意見交換が行われた。

- ・2013年10月27日(日)アサビフェスタ内で、造形作家の竹谷隆之さんの講演を422号教室で開催した。
- ・WEB申込枠90名に対して70名の参加があり、同窓生19名、在校生13名、教職員5名、一般33名。
- ・手伝いの委員が11名で合計81名、ネット事前予約が締切までに32名、当日参加が38名。
- ・講演者の竹谷さんと司会の松岡さんとのやり取りがスムーズで、作品展示やプレゼントコーナーとサイン会もあり、参加者にとって作家との接点ができ、充実していて非常に良かった。

◎「竹谷さんの生立ちや最先端のこともわかり、奥行き深い話が聞けた。もっと人が来てしかるべき内容だったので、アナウンスを広めた方が良い」「ブリッジ:毎回アナウンスの方法は変わらないが、ネームバリューの問題や、アナウンスと比例するかどうかというのもある。本来は同窓生や在校生に聞いてほしいが一般の方や当日参加者が多い」「フェスタ中なので学生は自分の担当時間が合わないと感じる」「アサビの先生方の意見として、創作の元となるような彼自身の生きざまが作品に結びついていてすごく面白かったと高く評価されていて、どうして在校生が見てくれないのかもおっしゃっていた。ブリッジの企画として考えれば、フェスタ以外の場合は集客目標を立てていないが、ゲストのネームバリューに頼っている部分がある。フェスタでの集客目的は一般の人にもリーチできる人。企画次第だと思うので何を見せたいかのうまいチョイスが必要」「講演者探しより企画から先に考える方が良い」「スタッフの人数も限られているので現状でやれることを基準に考えなければいけないし、予算立ての前に具体的なアイデアとして出してもらえれば計画し易いし、その先の行動も取り易い」「ブリッジ:セミナーの運営にあたって、講演者の人材に恵まれているのは事実であると思うが、実際は常任幹事のお手伝いで成り立っている。誰がやるかということ考えないと無理だし、お金を出してアルバイトを頼むのは良いが、基本的には卒業生から預かった貴重なお金で運営しているので、いかに卒業生や在校生に還元するかということが前提であるといつも思っている。こういう優れた人材がいるから10人でも聞いてくれたら良いという状態でスタートして、外部の人は呼ばない方向で進んでいた。それが、やっぱりいいことだからと外部へも広げ、もっとネームバリューのある人などと色々あった。フェスタで松岡さんが担当していたものをブリッジで引受けたのが現在なので、他企画との複合が悪いというわけではないが、いったい誰がやるかを考えないとなかなか難しい。やれる範囲でできれば良いと思う」「会場に422号教室を使うと30人くらいでは寂しく、521号教室では大勢の入場も困難な話。フェスタと絡めると会場を取るの難しいが、別の日をセッティングして30人くらいでもいいからこういうスペースでというのも良いと思う。フェスタでやるのが難しい企画であれば、準備段階で今年はフェスタとの抱合せが難しいと学校に伝える。また、同窓会も協力しないとフェスタの集客が難しいということであればフェスタでおこなえる企画・人選が必要となる。まずは同窓会としての方向性の確認が大事なのではないか」

これに対して松岡氏は「以前、アサビフェスタがどうあるべきかという報告書を出し、2つの考え方があると書いた。フェスタでの考え方とそれ以外での考え方があると思う。フェスタでやる意味は大きいし、学校も感謝していると思う。だからこそ大きい会場をアサビブリッジ用にキープしてくれていると思っていただきたいんです。学校としてはメイン会場的な感じでやってほしいという話もありましたし、あの人数でも見栄えはそんなに悪くなかった。同窓会の目的として学生と学校を支援するというのがあるので、フェスタで同窓会がやるということにはすごく高い意義があるのかなと思っている。卒業生がアサビに来る一つのきっかけにもなるし、一般客が来ることでアサビの認知度が上がる。色々な専門学校がある中で、有名な卒業生がちょくちょく顔を出しているというイメージはアサビにとってもすごく高いし、そういう意味でアサビフェスタでのセミナーは続けて行ってほしいと思います。あと、有料にする手もあると思う。予算をおさえていく中、マネタイズも必要ではないだろうか」と意見した。「アサビブリッジは在学生と卒業生の架け橋として始まったものだし、学生に見てもらおう手立ても考えないといけないと思う。もう少し学生にアプローチをかけるべき。フェスタでやる際のバリューに関しては、フェスタでは内容として会場に入りにくくても、現場の生の声を届けるという趣旨も含めて企画を立てることが大事ではないか」「ブリッジの講演内容を文章化したりアーカイブ化して発表などはしないのか」との質問に「素材は揃っているがまとめてはいない」「文字起こしと報告書は別の作業となる」等の答えがあり、藤原氏は「当日の参加者しか内容がわからないのは勿体ない。まんが計画に関しても同じ主旨で、外に向けて広げて行って、興味を持った人にアサビのことを少しでも知ってもらおうという循環が起きないと広がっていかないと、学校と学生と卒業生が繋がるためのアクションをこれからも起こしていく必要がある」と述べた。

◎以上のような意見交換を経て、方向性の確認と、こういう企画でこういう人をというアイデアを持ち寄り、次回会議で検討することとした。

### ■ 議題 3 その他・意見交換

#### ◎常任幹事改選選挙について

- ・秋元会長が「来年3月の常任幹事改選選挙にあたり、概要を次回会議で提示する。幹事の3分の1弱が住所不明（私の記憶違いで5分の1ほどと訂正いたします）であることについて、不明ボリュームの多い30代～40代の方からの応答を取ることが難しい。どこかで何か方法を講じなければと考えている。また選挙方法も返送率を高めるために、検討していきたい」と述べ、これに対する話合いの中「郵便物だけではなく、メールや電話でダイレクトに連絡して連絡先を突止めるのも良いのでは」という意見が出た。選挙方法も意見を聞き、検討していくこととした。
- ・藤原氏より関連事項として、IC科20周年のため名簿の充実を図りたく、同窓会の協力を得られないだろうかとの意見が出て、名簿の充実という趣旨で協力する方向とした。

### ■ 閉会挨拶

松岡氏より会議内容のまとめが述べられた後、次回の会議予定が告知されて議会は閉会した。

次回日程：2014年1月25日（土）15：00～17：00 第4回常任幹事会を予定